

目 次

No.	内 容	学年・題材名	研 究 の 視 点	ページ
1	B 日常の食事と 調理の基礎	6 年 わたしにまかせて！ 〇〇家の食事	家庭生活を見つめ、家族との関わりを 大切にする題材構成の工夫 【中央ブロック】	1
2	C 快適な衣服と 住まい	6 年 思いを形に 生活に役立つ 布製品	主体的・協働的な学びの充実 ～問題解決の学習過程を重視した授業 づくり～ 【県北ブロック】	9
3	C 快適な衣服と 住まい	6 年 クリーン大作戦	生活をよりよくしようとする実践的な 態度を育てるための家庭科教育 【県東ブロック】	14
4	D 身近な消費生活と 環境	5 年 めざそう買い物名人	学習したことを家庭生活で活用する場 面を設定した題材構成の工夫 ～家族の団らんのための買い物学習を 通して～ 【県南ブロック】	20
5	B 日常の食事と 調理の基礎	5 年 食べて元気に ～日本の伝 統食をおいしく食べよう～	よりよい生活を目指して課題を解決す る能力を育む授業の工夫 ～日本の伝統食をおいしく食べよう。 我が家のみそ汁作りの活動を通して～ 【県西ブロック】	25

平成28年度の研究地区（中央ブロック）

10/21（金）水戸市立稲荷第二小学校にて授業研究会を実施

研究の視点	家庭生活を見つめ、家族との関わりを大切にする題材構成の工夫 (内容 A と内容 B の関連を図って)
-------	---

1 題材名 わたしにまかせて！ ○○家の食事（第 6 学年）

2 題材の目標

- 自分の成長と家族や家庭生活とのつながりに関心をもち、家族のために栄養を整えた食事を考えたり、感謝の気持ちを込めて調理したりしようとする。
(家庭生活への関心・意欲・態度)
- 米飯とみそ汁を中心とした 3 つのグループの食品の揃った 1 食分の献立について考え、家族とともに楽しく食事をするために自分なりに工夫したりする。(生活を工夫する能力)
- 材料や目的に応じたゆで方やいため方ができる。(生活の技能)
- 家族との触れ合いの大切さや栄養のバランスのよい 1 食分の献立の立て方について理解する。
(家庭生活についての知識・理解)

3 題材について

本題材は、『小学校学習指導要領解説家庭編』に示されている内容 B を中心に構成されており、日常の食事への関心を高め、食事の大切さに気付くとともに、調和のよい食事と調理に関する日常の食事と調理に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、食生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を育てることをねらいとしている。

本学級の児童 29 名は、これまでに、お茶いれ、フルーツの皮むき、ゆで野菜サラダ、ゆで卵、炊飯、みそ汁づくり等の調理実習を通して、知識や技能を身に付けてきた。家庭科の学習を楽しみにしている子どもが多いが、中でも調理実習の学習は全員が楽しみにしており、6 割を超える 18 名が家庭において自分一人で食事を作ったことがあると答えている。

指導に当たっては、これらの実態を受け、これまでの学習で身に付けた知識や技能等を振り返ることにより、自分の成長を実感できるようにし、さらに成長できる期待感をもって題材に臨めるようにしたい。また、食生活を家庭生活の中で総合的にとらえられるよう、内容 A「家庭生活と家族」との関連を考え、家庭との連携を図ることで、健康で安全な食生活を実践するための基礎が培われるようにし、自分の成長を自覚することで家庭生活への関心を高め、家庭生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を育てられるようにしたい。自分の家族の求めに応じた献立を考え、調理する活動を通して、家族の調理する姿や献立にこめられた工夫や思いに触れ、家族への思いを育むとともに、家庭生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を育てていきたい。

4 題材の評価規準

内容	家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を 創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・理解
内容 A	・家族のための食事作りを通して、自らの家庭の食事や生活に関心をもち、食事作りに取り組もうとしている。	・家族との食事作りを通して、家族とともに楽しく食事をするために自分なりに工夫している。		・家族とのふれあいや団らんの大切さについて理解している。
内容 B	・1 食分の食事のとり方に関心をもち、栄養を考えた食事のとり方をしようとしている。	・米飯とみそ汁を中心とした 3 つのグループの食品のそろった 1 食分の献立について考えたり、自分なりに工夫したりしている。	・材料や目的に応じたゆで方やいため方ができる。	・栄養のバランスのよい 1 食分の献立の立て方について理解している。

5 題材の指導と評価の計画(10 時間)

本時

学習過程	小題材名及び目標 ()は時数	主な学習活動	家庭生活とのかかわり	評価規準 (評価方法)			
				関心・意欲・態度	創意工夫	技能	知識・理解
見つめる	1 自分の力でできるかな?〇〇家の食事づくり (2) ・これまでにしてもらってきたことを振り返り、自分でできることを生かして家族のための食事作りに取り組もうとする。	・今までの学習で作れるようになった料理を振り返る。 ① ・ゆでたまご ・ゆで野菜 ・ご飯・みそ汁 ・野菜炒め ・できることを生かしてさらにできるようにになりたいこと、また今の力を生かすことでできることを話し合う。 ・「わたしにまかせて! 〇〇家の食事」の学習計画を立てる。	・家庭での実践を振り返り、喜んでくれた家族の顔を思い出す。	A 自分の成長と家族や家庭生活とのつながりに関心を持ち、家族の大切さに気付き、家族のための食事作りに取り組もうとしている。 (ワークシート)			
さぐる	・1食分の食事のとり方に関心を持ち、栄養を考えた食事のとり方をしようとする。 ・栄養を考えて食事をとることの大切さが分かる。	・料理カードをトレイに乗せながら、一食分の献立を考える。 ① ・栄養のバランスがとれているか確かめる。 ・栄養教諭から一食分の献立の立て方についての話を聞く。		B 1 食分の食事のとり方に関心を持ち、栄養を考えた食事のとり方をしようとしている。 (学習カード)			B 栄養を考えて食事をとることの大切さについて理解している。 (学習カード)
	2 「〇〇家の食事」の計画を立てよう (3) ・自分の家族のための1食分の食事を考えたり工夫したりする。	・食品カードや料理カード等を参考に食品を組み合わせて、自分の家族に合わせて1食分の献立を考える。 ② ・それぞれの献立についてグループで話し合い、使う食品を体内での主な働きによって分類し、栄養のバランスを確かめる。 ①	・家の人はどんなことに気を付けて献立を考えているのか、また、家族はどのような食べ物の好みがあるのかをインタビューする。	A 家族のための食事作りを通して、家族の役に立とうとしている。 (実践計画表)	B 3つのグループの食品のそろった1食分の献立を考えたり、自分なりに工夫したりしている。 (学習カード)		B 栄養のバランスのよい1食分の献立の立て方について

広げる 深める							て理解している。 (学習カード)
	3 お試しクッキング (3) ・考えた1食分の献立を分量や手順を考えて調理計画を立てたり、ゆでたり、いためたりして調理ができる。	・考えた1食分の献立を調理する計画を立てる。①		B材料や目的に応じた調理をしようとしている。 (行動観察) (調理計画表)	B材料や目的に応じたゆで方やいため方を考えたり、自分なりに工夫したりしている。 (調理計画表)		
		・ゆでたりいためたりして、考えた献立を調理する。②				B①材料や目的に応じたゆで方やいため方ができる。 (行動観察 ・完成盛りつけ写真)	
	4 「まかせてね!〇〇家の食事」の準備をしよう。 (1)	・お試しクッキングの振り返りをもとに、実践計画を見直す。			A家族との食事会を楽しくすることについて考えたり、自分なりに工夫したりしている。 (実践計画)		
生かす	☆ 家庭で実践する。						
	5 報告会をしよう (1) ・1食分の食事のとり方に関心をもち、栄養を考えた食事のとり方をしようとする。	・自分で考えたレシピを紹介し合い、相互評価する。①	・家族の感想を聞く。 ・レシピ集を参考に、家庭でさらに実践する。	B③1食分の食事のとり方に関心をもち、栄養を考えた食事のとり方をしようとしている。 (レシピ)			A家族とのふれあいや団らんの大切さについて理解している。 (振り返りカード)

6 本時の学習（1 時間目）

（1）目標

自分の成長と家族や家庭生活とのつながりに関心を持ち、家族のための食事作りに取り組もうとする。
（家庭生活への関心・意欲・態度）

（2）準備・資料

タブレット（調理実習の写真データ），既習の料理カード，ワークシート

（3）展開

配時	学習活動及び内容	・指導上の留意点 ☆内容 A との関連	評価場面・評価方法
5	1 本時の学習課題をつかむ。 家族との毎日の食事をふり返り，学習の見通しをもとう。	・事前アンケートの結果から，食生活や調理実習への関心が非常に高かったことを賞賛し本時の学習意欲につなげる。	
20	2 自分や家族の毎日の食事について振り返る。 (1) 自分がどのくらい関わっているのかを考える。 ・「まかされ度」（ ）% ＜理由＞ （時間がない，自信がない，家族の方が上手など） (2) これまでの学習を通してできるようになったこと，分かったことは何か話し合う。 ・お茶の入れ方 ・包丁の使い方・分量の測り方 ・ゆでる調理（野菜・卵） ・いためる調理（野菜・卵） ・炊飯 ・みそ汁の調理 ・五大栄養素 ・団らん ・買い物（材料の選び方）など	☆それぞれの家庭の中で，どの程度，食事に関する仕事を任せられているかを「まかされ度」として割合で表し，「してもらう自分」の現状を再確認できるようにする。 ☆タブレットを用いて，これまでの調理実習の写真を通して，身に付けた技能や作った料理を振り返り，自己の成長を視覚的に捉えられるようにする。 ・具体的な活動と身に付いた知識や技能が混在した意見になることが予想されるので，関連する料理の写真に置き換えながら整理する。 ☆「できる自分」への気づきを大切にし，家族のために何かできるかもしれないという期待感につなげたい。	「できる自分」への気づきをワークシートに記入したり，発表したりする場面
15	3 「まかせてね」と言えるためには，どんな学習をすればいいのか話し合い，学習の見通しをもつ。 (1) 調理実習で作れるようになった料理を組み合わせることで「まかせてね」と言えるかを話し合う。 ・これだけあれば十分。量が多い？ ・卵を2個も使ったら多すぎるよ。 ・材料がかたよっている。	・「1 食分の献立」という新たな視点で見直すことで，さらに知りたいことやできるようになりたいことを具体的にイメージし，2 (2) の活動と比較しながらワークシートに書き出せるようにする。 ☆学校栄養士や家族へのインタビュー等を取り入れながら学習を進めていくことを確認し家庭生活や家族への意識や食生活への関心を強めることが	■評価方法 【ワークシート・発表】 関心・意欲・態度

5	・他の料理もできた方がいいよ。 (2)もっとできるようになった方がよさそうなことや知る必要がありそうなことを考える。 ・献立の立て方を知りたい。 ・料理のレパートリーを増やしたい ・一人で手際よく作るための調理計画を立てたい。 ・栄養のバランスを考えたい。 ・自分の家族の好みに合う食事を作りたい。 4 本時の学習を振り返る。 ・いつもしてもらっていた食事の準備を、自分一人の力でできるようになりたい。	できるようにする。 ☆「してもらう自分」から、「できる自分」そして誰かのために「してあげられる自分」へと成長していく過程が児童にも分かるよう、板書構成を工夫する。 ・児童の振り返りの声を生かしながら本題材の学習の進め方を確認し、見通しをもてるようにする。	家族のための食事作りに関する今後の自分の課題について、ワークシートに記入する場面 ■評価方法： 【ワークシート】 関心・意欲・態度
---	--	--	---

7 指導の実際

(1) 自分の生活や成長を十分に見つめるための手立て

<写真①>

自分や家族の毎日の食事について振り返る際、それぞれの家庭の中でどの程度食事に関する仕事を任されているかを「まかされ度」として割合で表してみた。(写真①)自分と友達の違いや全体の傾向を知ることができるよう、道徳等で使用する円グラフ(可動式)の割合を100%から徐々に減らしながら、自分に当てはまるところで挙手をしていくようにした。実際には10%前後の児童が一番多かったので、食生活においてはまだまだ「してもらう自分」の現状を視覚的に再確認する結果となった。理由としては、「習い事などで忙しくて時間がない」「危ないからなかなか任せてもらえない」「頼まればやっているが、自分からは自信がない」などが挙げられていた。



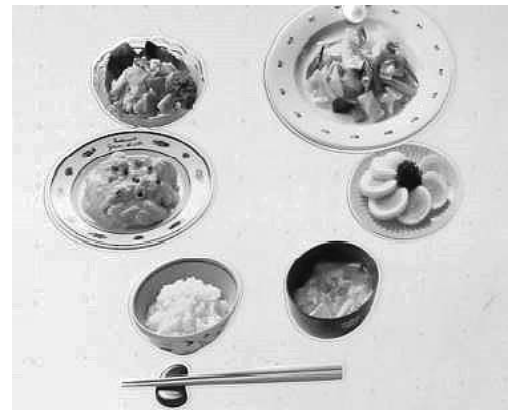
<写真②>

また、これまでの家庭科の学習を振り返る際には、各グループに1つ配付したタブレットを活用し、調理実習等の写真を自由に閲覧できるようにした。(写真②)写真をきっかけに、自分たちが学習してきた内容を具体的に思い出し、「できる自分」にも気付くことができるようにした。なお、タブレットの操作や写真の閲覧に興味を偏らないよう、事前に他教科で操作を練習したり、写真の枚数を適正に選んでおいたりして本授業に臨んだ。

(2) 自分の課題を発見するための手立て

「食」の学習でできるようになったことを発表する際、児童の意見に合わせて、調理できるようになった料理の写真を並べて提示した。さらに、それらの回りをトレイのように囲んで箸を置くことで、1食分の献立を意識できるようにした。(写真③)

また、「このままでも十分に1食分の食事を準備することができるのではないかと」と投げかけ、グループで話し合う場を設けた。4人ずつの小グループで話し合うことで、いろいろな考えが出てきた。(写真④)



<写真③>

できる料理を並べたら、意外と豪華な食事になるね。ご飯とみそ汁が作れるならなんとかなりそう。

今のままでは、毎日同じメニューになってしまうかも。家族があきてしまうよね。

栄養のバランスが悪くないかな？野菜が多いのはいいけど、多すぎるのはどうかな？

肉や魚が入ってないな。学校の調理実習では使えなかったね。

まだまだ、「任せてね」とは言えないみたいだね。

<写真④>

話し合いの後で、「任せてね！〇〇家の食事」と胸を張って言えるようになるためには、どんなことができるようになりたいか問いかけ、自分の考えをワークシートに書くようにした。(資料①、写真⑤)

「してもらおう自分」が「できる自分」へと成長しているだけでなく、「してあげる自分」になれることを全体で確認し、主体的に学びに向かうための課題につながるようにした。また、児童の思考の流れが分かる板書構成にも心がけた。(写真⑥)

<資料①：「もっとできるようになりたいこと」の例>

- ・もっといろいろな食品を組み合わせた料理を作れるようになりたい。
- ・栄養のバランスがよい献立を考えたい。
- ・食べる人（家族）の好みに合ったメニューを作りたい。
- ・自分一人でも、手早く1食分の食事を準備できるようになりたい。
- ・魚や肉の加工品を使って、おいしいおかずを考えたい。
- ・給食みたいに、毎日違う献立が立てられるようになりたい。
- ・「任せるね。」と言われるようになりたい。
- ・献立の立て方を栄養士の先生に相談したい。
- ・自分一人で食事を作って家族を喜ばせたい。



<写真⑤>



<写真⑥>

8 成果と課題

(1) 成果

本時の導入時に円グラフの掲示物を用いて各自の「まかされ度」を考えたことで、児童は家族との関わりや家族の一員としての自分について意識することができていた。これまでの「してもらう自分」について視覚的にとらえることができ効果的であったと考える。

タブレットで調理実習の様子を振り返ることで、これまでに身に付けた知識や技能を思い出し、それを生かして家庭生活をよりよくしようと話し合うことができた。「できる自分」への気付きは、次の学習への大きな意欲につながったと考えられる。さらに、家族のために「してあげられる自分」を意識することで、主体的に学習に向かう態度や次の学習へのさらなる期待感につなげることができた。本時の最後に行った児童の振り返りからは、「できることを家でどんどんやっていきたい」「家族のために料理をもっと作りたい」といった前向きな感想が見られ、内容Bの学習を内容Aの視点から考える授業のねらいが達成できたと考ええる。

本題材では、学校栄養士の協力のもと、全員が家族のために「1食分の献立」を工夫して考えることができた。学校で試し作りの調理実習を行い、さらに見直しを加えることで、自信をもって家庭で実践することができた。また、家庭科で学習したことを生かして家族との関わりをより深めることができることや、誰かの役に立つ自分にも十分に気付くことができた。

(2) 課題

話し合い活動において、「1食分の献立」のイメージが子どもたちには難しいため、資料などの準備が課題である。また、日常の食事に関しては、各家庭の事情やプライバシーに考慮しながら事前アンケート等を行い、児童の実態を十分に把握しておくことの必要性を感じた。

さらに、タブレット等のICT機器の活用においては、問題解決の際の情報収集や、報告会等のプレゼンテーションに効果的に取り入れられるよう工夫したい。

「まかせてね！〇〇家の食事」

名
前

①課

家族との毎日の食事をふりかえり，学習の見通しをもとう。

①「食」の学習で，できるようになったこと

①自

①友

②「まかせてね！」と言えるようもっとできるようになりたいこと

①ふ

研究の視点	主体的・協働的な学びの充実 ―問題解決の学習過程を重視した授業づくり― (内容Aと内容Cの関連を図って)
-------	---

1 題材名 思いを形に 生活に役立つ布製品 (第6学年)

2 題材の目標

- 自分や家族の生活に役立つ布製品に関心をもち、製作に必要な材料や用具などを準備したり、見通しをもって製作したりしようとする。(家庭生活への関心・意欲・態度)
- 使用する家族や目的に応じて、製作する物や製作計画について考えたり、自分なりに工夫したりする。(生活を創意工夫する能力)
- 用具を安全に取り扱い、手縫い、ミシン縫いを活用して製作することができる。(生活の技能)
- 製作に必要な材料や用具の安全な取り扱い方、製作手順が分かり、製作した物の活用を通して家族との関わり大切さについて理解する。(家庭生活についての知識・理解)

3 題材について

本題材は、「C快適な衣服と住まい」の(3)「生活に役立つ物の製作」との関連を図っている。ここでは、これまでに学習した手縫いやミシン縫いの知識や技能を生かして、生活に役立つ物を作り、製作に関する技能を身に付け、日常生活で活用することができるようにすることをねらいとしている。

意識調査(男子18人、女子14人、計32人 9月2日実施)

- 家庭科の授業は、将来役に立つと思いますか。
・思う21人 ・どちらかというと思う9人 ・あまり思わない2人 ・思わない0人
- 手縫いやミシンで物を作ることは好きですか。
・好き16人 ・どちらかというが好き9人 ・あまり好きではない5人 ・嫌い2人
〈好きの理由〉・楽しいから ・物ができ上がると嬉しいから ・オリジナルの物ができるから
〈嫌いの理由〉・上手に作れない ・ミシンの使い方が難しい ・時間がかかる
- 手縫いやミシンで物を作ったことがありますか。(家庭科の学習は除く)
・はい 19人 ・いいえ 13人
- どのような物を作りましたか。(複数回答)
・巾着袋 7人 ・シュシュ 4人 ・小物入れ 4人 ・雑巾3人 ・バッグ 2人
・ポーチ 1人 ・筆入れ 1人

本学級の児童の多くは、家庭科の授業に真面目に取り組んだり、友達と協力したりしながら作業を進めることができる。また、意識調査からも「家庭科の授業は、将来役に立つ」とほとんどの児童が考え、家庭科の知識や技能をしっかり身に付けたいと思っている。製作に関しては、物を作ることは好きだが、「上手に作れない」「ミシンの使い方が難しい」など苦手意識を感じている児童もいる。第5学年では、手縫いやミシンを用いた直線縫いの仕方について学習し、ランチョンマットやコースターを製作したが、その後は、製作する経験がない児童も多い。製作することに興味・関心があっても、苦手意識があったり、物を作る必要性を生活の中で感じられなかったりすることがうかがえる。

そこで、本題材では「生活に役立つ物を製作しよう」という課題を設定し、その達成に向けて、製作計画の立て方や製作の手順について丁寧に取り扱い、しっかりと理解させてから製作に入れるよう学習過程を工夫する。ミシンでの製作活動時には、スクールサポーターの方にも協力していただき、児童一人一人に細やかな指導ができるようにする。また、内容A「家庭生活と家族」との関連を図り、家族に役立つものを考えたり、家族からのアドバイスを受けたりして製作した物を家庭生活中で活用できるようにしたい。そして、学習を通して製作する喜びや家庭生活に役立つ満足感を味わい、家族の一員として家庭生活をよりよくしていこうとする態度を育てていきたい。

4 題材の評価規準

内容	家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を 創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・理解
内容A	・家族との関わりに関心をもち、自分や家族の生活に役立つ布を用いた物の製作を通して家庭生活をよりよくしようとしている。	・家族との関わりについて課題を見つけ、その解決を目指して考えたり、自分なりに工夫したりしている。		・家庭生活に役立つ物の製作を通して、家族との関わり大切さについて理解している。
内容C	・製作に必要な材料や用具などを準備し、見通しをもって製作しようとしている。	・使う目的に応じて製作する物や製作計画について考えたり、自分なりに工夫したりしている。	・用具を安全に取り扱い、手縫い、ミシン縫いを活用して製作することができる。	・製作に必要な材料や用具の安全な取り扱い方が分かり、製作手順について理解している。

5 題材の指導と評価の計画（15時間）

本時

学習過程	小題材名及び目標 ()は時数	主な学習活動	家庭生活とのかわり	評価基準（評価方法）			
				関心・意欲・態度	創意工夫	技能	知識・理解
見つめる	1 目的に合った形や大きさとぬい方を考えよう (1)	・ふくろやカバーなどの生活に役立つ布製品を観察して、製作するために必要な条件を考える。	・生活の中で役立っている布製品を見たり、使っている家族の思いを聞いたりしてくる。	A自分や家族の生活に役立ったり、家族との関わりを深めたりする布を用いた物の製作に関心をもっている。 (ワークシート、発表)			C製作に必要な材料や用具が分かり、簡単な製作手順について理解している。 (学習カード)
さぐる	2 工夫して作ろう (12)	・製作する物を新聞紙で試し作りをしながら、製作計画を立てる。①	・家族が、袋の中に入れたい物の形や大きさを確かめてくる。		A家族が使いやすいように大きさを考えたり工夫したりしている。 C使う目的に応じてゆとりを加えたできあがりの大きさを考えたり、自分なりに工夫している。 (ワークシート)		
深める		・目的に合わせて、布を選び、形や大きさと縫い方を工夫して製作する。①②		C製作に必要な材料や用具などを準備し、見通しをもって製作しようとしている。 (行動観察、学習カード)	C手縫いやミシンを用いた直線縫いにより、目的に応じた縫い方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。 (学習カード)	C目的に応じて手縫いやミシンを用いた直線縫いで製作することができる。 (作品)	C製作に必要な材料や用具の安全な使い方が分かり、製作手順について理解している。 (学習カード)
生かす	☆ 家庭で実践する。(作品を使ってみる。)						
	3 衣生活を豊かにしていこう (2)	・友達の工夫を聞いて、製作計画を見直したり、自分の生活に生かせそうなことを見つけたりする。 ・自分が製作した物を活用した感想を話し、どう役だったか、改善できそうな点はどこかを交流する。②	・作品を実際に使ってみた家族に、感想を聞く。		A製作した物を家族と一緒に生活で活用し、改善点を考えたり、自分なりに工夫したりしている。 (ワークシート)		A家庭生活に役立つ物の製作を通して、家族との関わり大切さについて理解している。 (ワークシート)

6 本時の学習(2時間目)

(1) 目標

新聞紙での試し作りを通して、家族が使いやすいよう、ゆとりを加えたでき上がりの大きさを考えることができる。
(生活を創意工夫する能力)

(2) 準備・資料

新聞紙、持参した物、メジャー、ワークシート、掲示物

(3) 展開

配時	学習活動及び内容	・指導上の留意点 ☆内容Aとの関連	評価場面・ 評価方法
5	1 前時までの活動を振り返り、 本時の学習内容をつかむ。 〇〇入れにちょうどよいふく ろの大きさを考えよう。	・前時までの学習を想起させ、本時の課題は重要であることを伝える。 ・「ちょうどよい」という言葉に注目させ、適切なゆとりのある大きさを考えられるようにする。	家族の生活に 役立つ物を製 作するために、 ゆとりを加え たできあがり の大きさを考 える場面 ■ 評価方法 【観察・ワークシート】 創意工夫
20	2 ゆとりを加えたでき上がりの大きさを考える。 (1) 持参した物の大きさを計り、袋の大きさを予想する。 ・ぴったりの大きさでは出し入れがスムーズにいかないよ。 ・中で物が動いてしまうほど大きくてもいけないな。 (2) 立てた見通しをもとに新聞紙で試し作りをする。 ・もっとゆとりが必要だね。 ・ちょうどよい大きさだったよ。 (3) できあがりの大きさを確定する。 ・横 ぬいしろ＋入れる物の大きさ＋ゆとり＋ぬいしろ ・縦 (ぬいしろ＋ゆとり＋入れる物の大きさ) × 2	☆作品を家族の誰に贈り、どのように使って欲しいのかを問い、作品作りに生かせるようにする。 ・持参した物の大きさをもとに大きさの見通しをもたせる。 ・メジャーやものさしなどを自由に使えるようにする。 ・ペアで話し合わせることで、すべての児童が大きさの予想を立てられるようにする。 ・実際に持参した物を出し入れすることで、ゆとりの大切さを実感させる。 ☆新聞紙で試し作りをしたものを、家族が使いやすいかという視点でペアで確認し合うことで、修正を加えながらよりよいできあがりの大きさになるようにする。 ・大きさが確定した児童に対しては、ワークシートに大きさを書き、予想と比べることで、ゆとりの大切さを実感させる。	
15	3 工夫したことを理由とともにワークシートに書き、全体で交流する。 ・実際に物を置いて確かめました。 ・出し入れしやすいように、ゆとりをもたせました。	・工夫したことが思いつかない児童には、試し作りを通して数値を変更した理由を問うことで、記述できるようにする。 ・自分と友達の類似点や相違点に注目しながら聞かせることで、袋の大きさを決める際のポイントを理解させる。	
5	4 本時の振り返りをして、次時の活動の確認をする。	☆次時は、型紙を作成することを伝え、家族の喜ぶ顔を思いながら製作活動が継続するようにする。	

7 授業のポイント

- ・生活の中で役立っている布製品について、その使い方やどのようなところが気に入っているかなど家族の思いをそれぞれの家庭で調べてくることを通して、自分で製作し使ってみようという意欲を高めていけるようにしたい。布製品のよさや作る際のポイントについてグループなどで話し合えるように、袋やカバー類に絞ってリサーチさせるとよい。
- ・袋物を製作するときには、入れたいものを想定した上で、「ゆとり」がないと入れたり出したりしにくいこと、あまり大きすぎても使いにくいことなどを、新聞紙を用いて実際に試し作りをすることにより、より実感していけるようにする。
- ・手縫いやミシン縫いには個人差が大きいと思われるので、製作作業時には保護者の方などのサポートをお願いしておくとうい。

作品名

完成予想図

こんな作品にしたい！！

	製作の手順	終わった日	ふり返って
計画			
製作			
発表会			

課 ○○入れにちょうどよいふくろの大きさを考えよう。

1 考えた大きさを書いておこう。

2 エ夫したところを書こう。

.....

.....

.....

.....

3 今日の授業をふり返ろう。

.....

.....

.....

.....

研究の視点	生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てるための家庭科教育 (内容 A と内容 C の関連を図って)
-------	---

1 題材名 クリーン大作戦 (第 6 学年)

2 題材の目標

- 家庭生活をよりよくするために、清掃に関心をもち、身の回りを快適に整えようとする。
(家庭生活への関心・意欲・態度)
- 汚れの種類や汚れ方に応じた清掃の仕方を考えたり、自分なりに工夫したりする。
(生活を創意工夫する能力)
- 家族の一員として仕事を分担し、汚れの種類や汚れ方に応じた清掃ができる。
(生活の技能)
- 家庭には、自分や家族の生活を支える仕事があることが分かり、汚れの種類や汚れ方に
応じた清掃の仕方について理解する。
(家庭生活についての知識・理解)

3 題材について

本題材は、『小学校学習指導要領解説家庭編』に示されている内容 C (2)「快適な住まい方」を中心に構成されており、身の回りの快適さへの関心を高め、その大切さに気付くとともに、住まいに関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、住生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を育てることをねらいとしている。また、内容 A (2)「家庭生活と仕事」との関連を図り、身の回りの清掃の必要性に気付き、家庭で分担できる仕事や家族への協力につなげて実践させたりすることが考えられる。

児童は、学校において、入学当初から校舎内外の清掃活動を通して清掃の仕方を学んでいるが、限られた時間の中で、汚れに応じた清掃の仕方を考えたり、工夫したりするまでには至っていない。また、家庭生活において、家族と一緒に清掃をしているという児童の経験は少なく、衣・食生活から比べると関心が低いのが現状である。

指導に当たっては、児童が日常よく使う場所を取り上げて学習を進めていけるようにする。学校や家庭での体験を基に清掃について見直し、なぜ汚れるのか、何のために清掃するのかを考えさせるとともに、床や窓などの汚れの種類、汚れ方に応じた清掃の仕方が分かり、状況に応じた清掃の仕方を考え、工夫して適切な清掃ができるようにする。清掃の指導については、学校内での汚れ調べの活動などを通して、汚れの種類や汚れ方に応じた清掃の仕方を考え、身に付けるようにするとともに、汚れは時間が経つと落ちにくくなることや、住宅用洗剤は、使い方の表示をよく見て使用する必要があることなどにも気付くように配慮したい。

清掃は、家庭によってやり方が異なり、清掃用具やその使い方も多様である。そこで、内容 A「家庭生活と仕事」の学習との関連を図り、家庭で行っている清掃の仕方や工夫を知ること、家族の気持ちを想像したり、協力して清掃をした感想を聞いたりするなど、実践する喜びや家族との関わりを感じさせながら学習を進めていきたい。

4 題材の評価規準

内 容	家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を 創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・理解
内 容 A	・家庭における仕事 に関心をもち、家 族の一員として家 庭の仕事をした り、家族に協力し たりしようとして いる	・家庭において自分 の分担する仕事を 考えたり、自分な りに工夫したりし ている。		・家庭には、自分や 家族の生活を支え る仕事があること を理解している。

内容 C	・清掃に関心をもち身の回りを快適に整えようとしている。	・身近な生活から課題を見つけ、汚れの種類や汚れ方に応じた清掃の仕方を考えたり、自分なりに工夫したりしている。	・汚れの種類や汚れ方に応じた清掃ができる。	・汚れの種類や汚れ方に応じた清掃の仕方について理解している。
------	-----------------------------	--	-----------------------	--------------------------------

5 題材の指導と評価の計画（5 時間）

□ 本時

学習過程	小題材名 及び目標 ()は時数	主 な 学 習 活 動	家庭生活との かわり	評価規準（評価方法）			
				関心・意欲・ 態度	創意工夫	技能	知識・理解
見つめる さぐる	1 そうじの仕方）見直そう（2） ・清掃の必要性に気づき、清掃への関心を高める。	・事前アンケートの結果から、気付いたことを発表する。 ・グループごとに学校の汚れを調べる。 ・気持ちのよい快適な生活をするためにどうしたらよいか話し合い、学習計画を立てる。		C 清掃の必要性に気づき、清掃への関心をもっている。 （ワークシート）			
	・身の回りの汚れを調べ、今までの清掃の仕方を見直し、清掃の仕方や工夫を考える。	・グループで調べる場所を分担し、汚れを調べる。 ・今までの清掃の仕方を振り返り、さらに工夫できることはないか話し合う。 ・汚れに応じた清掃の仕方を発表する。					C 汚れに応じた清掃の仕方や工夫について理解している。 （実践計画表）
広げる 深める	2 そうじの仕方）工夫しよう（3） ・汚れに応じた清掃の仕方を考え、工夫することができる。 ・汚れに応じた清掃をする。 ・汚れに応じた清掃の仕方がわかる。	・清掃の手順を調べ、確認する。 ・汚れに応じた清掃の工夫について話し合う。 ・グループで清掃する場所を決め、汚れに応じた清掃の計画を立てる。 ・グループごとに清掃場所、用具や分担、時間を確認する。 ・汚れに応じた清掃をする。 ・清掃の手順や工夫を振り返って、汚れに応じた清掃の仕方をまとめる。	・家の人は、清掃をするとき、どんな工夫をしているのかインタビューをする。		C 今までの清掃の仕方を見直し、汚れに応じた清掃の仕方や工夫を考えている。 （ワークシート）	C 汚れに応じた清掃をすることができる。 （行動観察）	

		・家での清掃の実践計画を立てる。		A家での清掃の計画について考えたり，自分なりに工夫したりしている。 (実践計画表)		
☆クリーン大作戦（家庭で実践する。）						
生かす	・家庭における清掃の仕方や工夫がわかる。	・家での清掃の手順や工夫について発表する。 ・汚れに合った清掃の仕方についてまとめる。	・家での掃除実践について感想を聞く。	A家庭における清掃に関心をもち，家族に協力して生活をよりよくしようとしている。 (ワークシート)		A C 家庭における清掃の仕方や工夫，家族に協力する大切さについて理解している。 (ワークシート)

6 本時の指導（5時間目）

(1) 目標

- ・家庭における清掃の仕方や工夫，家族に協力する大切さについて理解することができる。
(知識・理解)
- ・家庭における清掃に関心をもち，家族に協力して生活をよりよくしようとしている。
(家庭生活への関心・意欲・態度)

(2) 準備・資料

ワークシート，ホワイトボード，マーカー，掲示用写真

(3) 展開

配時	学習活動及び内容	・指導上の留意点☆内容Aとの関連	評価場面・評価方法
5	1 本時の学習課題をつかむ。 家での清掃の仕方や工夫についてまとめよう。	・家でのクリーン大作戦の実践から，各家庭における清掃の仕方や工夫について，写真の掲示により意欲を喚起できるようにする。	
25	2 家でのクリーン大作戦の実践についてまとめ，発表する。 (1)自分の考えをまとめる。 ・家の人からのアドバイスや清掃後の感想 ・実践から気付いたこと ・感想	・学習課題については，個人からグループ，全体という形式を通して交流し，様々な考えを聞くことができるようにする。そして，家庭における清掃の仕方や工夫が理解できるようにする。 ・ワークシートの項目を工夫することで，清掃後の感想や考えをまとめやすくする。 ・ここでは，家の人からのアドバイスをもとに，清掃のための便利な	

		用具、環境に配慮した清掃の工夫（洗剤を使わない清掃）などにも触れていけるようにする。 ☆家での実践に対する家族の気持ちに気付かせるために、家族の感想にも触れられるようにする。	
	(2) グループで発表する。 ・自分の考えを発表する。 ・発表を聞いての感想や意見を述べる。 ・グループで交流した内容をホワイトボードに書く。 (3) 全体で発表する。 ・話し合ったことを発表する。 ・他のグループの発表を聞いて、感想やわかったことを述べる。	・グループでの話し合いにおいては、友達の実践に耳を傾け、自分の考えと比べたり、新たな清掃の工夫に気付いたりできるようにする。 ・汚れ・用具・方法・結果を明確に発表させることで、情報を共有することができるようにする。 ・話し合った内容がわかるように、グループでの交流の後は、ホワイトボードにまとめ、全体の中で発表できるようにする。 ・発表した内容について、各グループから意見や感想をもらうことで、汚れに応じた清掃の仕方や工夫の理解が深まっていけるようにする。 ☆家庭における清掃の仕方や工夫について、話し合った内容を「学年だより」でお知らせすることで、家庭における実践の継続に役立っていけるようにする。	家庭における清掃の仕方や工夫について全体で発表し合う場面 ■評価方法 【発表・ワークシート】 知識・理解
10	3 本時の学習を通して、考えたことをまとめる。 ・家庭においても清掃の工夫がある。 ・家庭での仕事は家族が協力して行う。 ・清掃をしてきれいにすることで家族みんなが快適に過ごせる。	☆家庭には、自分や家族の生活を支える仕事があり、家族の一員として仕事を役割分担することの大切さに触れ、家庭生活をよりよくしていこうとする具体的な取組についてもまとめられるようにする。 ☆家族のことを考えて、快適に過ごせるように掃除の仕方を考えられるようにする。	家での清掃の仕方や工夫について考えたことをまとめる場面 ■評価方法 【ワークシート】 関心・意欲・態度
5	4 本時の学習を振り返る。 ・汚れ方に応じた清掃の仕方や工夫が分かった ・自分の家でも実践してみたい。	・家庭における清掃の仕方や工夫について理解することで、清掃活動への意欲を高めたい。	

7 授業のポイント

- ・題材設定の際は，休日や夏休みなど，家庭において協力が得られる時期を選んで設定するとよい。
- ・今までの清掃の仕方を振り返り，汚れに応じた清掃の仕方や工夫を考え，実践することで，より快適な生活が送れるということに気付かせていきたい。
- ・学校における清掃活動の実践をもとに，家庭の実践へとつなげていけるようにする。そのために，体験活動においては，場所，用具，分担，時間などの計画をきちんと立てられるようにする。その際，ワークシートを工夫して視点に迫ることができるようにする。
- ・家庭での清掃の仕方や工夫について調べ，実践することで家族の一員として，協力しようとする気持ちを育てられるようにする。
- ・「学年だより」を活用して家庭へ協力を呼びかけ，清掃の仕方や工夫，環境に配慮した清掃の工夫などについてもアドバイスがもらえるようにする。
- ・学習課題については，個人からグループ，全体という形式をとって話し合い活動をするなど，言語活動の充実が図れるようにする。

クリーン大作戦



6年 名前()

◇家の人からもらったアドバイス◇

1 家での実践(清掃の仕方や工夫)

場所	どんな汚れ	清掃グッズ	洗剤	どんな方法で	結果

◇清掃後の感想◇



自分	家の人
.....	
.....	
.....	

2 クリーン大作戦を行って気付いたこと わかったこと

.....
.....
.....

研究の視点	学習したことを家庭生活で活用する場面を設定した題材構成の工夫 ～家族の団らんのための買い物学習を通して～ (内容Aと内容Dの関連を図って)
-------	--

1 題材名 めざそう買い物名人 (第5学年)

2 題材の目標

- 物や金銭の計画的な使い方に関心をもち、物や金銭、家族との触れ合いを大切にしながら、家族の団らんのための適切な買い物をしようとする。(家庭生活への関心・意欲・態度)
- 購入しようとする物の品質や価格などの情報を活用し、目的に合った物の選び方や買い方について考えたり、自分なりに工夫したりする。(生活を創意工夫する能力)
- 購入しようとする物の品質や価格などの情報を集め、整理することができる。(生活の技能)
- 家族との触れ合いの大切さや物や金銭の計画的な使い方、目的や品質を考えた物の選び方や適切な買い方について理解する。(家庭生活についての知識・理解)

3 題材について

本題材は、内容D「身近な消費生活と環境」(1)に示された指導事項のうち、物や金銭の使い方と買い物などの学習を通して家族の生活を支えている物や金銭の大切さへの関心を高め、物の選び方や買い方に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、計画的な使い方を考え購入できる能力や実践的な態度を育てることをねらいとしている。

そこで、生活の中で金銭がどのように使われているのかを見つめることから学習を始め、生活を支える金銭について、自分や家族の生活との関わりから考え、課題に気づき、適切な買い物ができるよう実践的・体験的に学ばせたい。

5年生ともなると、これまで小遣いを使ったり、校外学習の機会にお土産を買ったりする経験をしている。しかし、自分の家庭ではどのようなことにお金が使われているのか考えたことのある児童は少ないと思われる。また、金銭を大切にするように言われているが、なぜ大切なのか、大切にすることはどういうことなのか、どうすればいいのか、深く考える機会はなく、本当の意味で、お金の大切さを理解し、適切な買い物の方法を理解・実践している児童が少ない。

そこで、内容A「家庭生活と家族」(3)に示された事項のうち、家族のふれあいや団らんの内容と関連を図って、本当に必要な物を目的に応じて購入する方法を実践的に指導していきたい。家族を招待する団らんを実施するために、「招待する家族の好みを調査する」「買い物計画を立てる」「広告などを活用して情報を集める」「買い物をする」「振り返る」の活動を取り入れていきたい。商品を選ぶ観点として、品質や価格、安全、使いやすさ、新鮮さであることを示し、よりよい買い物ができるようにしていきたい。

また、多様な家庭環境に配慮するとともに、家庭との連携を図り、継続的な実践ができるようにしていきたい。

4 題材の評価規準

内容	家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を 創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・理解
内容A	・家族との触れ合いや団らんに関心をもち、家族に気持ちを伝えたり触れ合う場をもったりしようとしている。	・家族との触れ合いや団らんを楽しむことについて考えたり、自分なりに工夫したりしている。		・家族との触れ合いや団らんの大切さについて理解している。
内容D	・身近な物の選び方や買い方に関心をもち、適切に買物をしようとしている。	・購入しようとする物の品質や価格などの情報を活用し、目的に合った物の選び方や買い方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。	・購入しようとする物の品質や価格などの情報を集め、整理することができる。	・目的や品質を考えた物の選び方や適切な買い方について理解している。

5 題材の指導と評価の計画（7時間）

本時

学習過程	小題材名及び目標 ()は時数	主 な 学 習 活 動	家庭生活とのかかわり	評価規準（評価方法）			
				関心・意欲・態度	創意工夫	技能	知識・理解
見 つ め る	1 お金の使い方を 見つめよう(1) ・生活を支えるお金の大切さを考え、買い物の仕方を見直そうとする。	○生活を支えるお金の大切さを考え、買い物の仕方を見直す。 ・家庭の収入と家族の仕事について考える。 ・生活を支えるお金の意味に気付く。	・家庭での金銭の具体的な使い方を振り返り、金銭が家族の生活を支えていることに気づく。	D 自分の生活との関わりから物や金銭の大切さに気付く、その使い方に関心をもっている。 (発表・観察)			D 限りあるものや金銭の有効な使い方について理解している。 (学習カード)
さ ぐ る	2 買い物名人になろう(3) ・目的にあった計画的な買い物ができるようにする。	○目的に合った計画的な買い物ができるようにする。 ・買い物の必要性を考える。		D 生活で使う身近な物の必要性について考え、計画的な買い物をしようとしている。 (学習カード)			
		・買い物名人になるために目的に合った物の計画的な買い方の意志決定の手順を考える。					D 目的や品質を考えた物の選び方や適切な買い物について理解している (学習カード)。
		・買い物名人になるために、ノート of 買い物を想定して、情報を集め、整理し、何を選ぶか決める。			D 購入しようとする物の品質や価格などの情報を活用し、目的に合った物の選び方や買い方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。 (観察)	D 購入しようとする物の品質や価格などの情報を集め、整理することができる。 (学習カード)	
広 げ る ・ 深 め る	3 買い物名人として生活しよう(3) ・買い物名人としてどんな	○買い物名人としてどんな工夫ができるか考える。 ・家族を招待する団らんの計画を立てる。(好みのインタビュー等)	・家族の年齢や好みなどを考え、みんなに喜んでもらえる団らんの準備ができるようにイ	A 家族とのふれ合いや団らんに関心を持ち、家族に気持ちを伝えたり触れ合う場をもったりしようとしてい			A 家族との触れ合いや団らんの大切さについて理解している。 (学習カード)

生 か す	工夫が出来るか考えることができる。	(本時) ・広告を活用し、情報を集め、より良い買い物ができるように計画する。	インタビューする。	る。(計画表)		
				A家族のことを考えた適切な買い方について課題を見つけ、その解決を目指して考えたり自分なりに工夫したりしている。 (観察・学習カード)	D購入しようとする物の品質や価格などの情報を集め、整理することができる。 (学習カード)	
	☆ 家 庭 で 実 践 す る。					
	・家庭で実践したことを振り返る。	・家族の感想を聞く。 ・実践した感想を報告しあう。	D実践の報告をすることで、上手な買い物について関心を持ち、今後の生活に生かそうとしている。(錶)			D目的や品質を考えた物の選び方や適切な買い物について理解している。 (学習カード)

6 本時の学習 (6時間目)

(1) 目標

購入しようとする物の品質や価格などの情報を集め、家族のことを考えた適切な買い方について計画を立てることができる。
(生活を創意工夫する能力・生活の技能)

(2) 準備・資料

家族の好みをインタビューしたワークシート 買い物の計画のワークシート 様々な店の広告 ふせん

(3) 展開

配時	学習活動及び内容	・指導上の留意点 ☆内容Aとの関連		評価場面・評価方法
		T 1	T 2	
5	1 家族の好みをインタビューしてきたことをもとに自分が立てた団らんの計画をグループの友達と発表し合う。 〈予想される反応〉 ・お母さんはクッキーと紅茶が好きだから団らんに用意する。 ・おばあちゃんは和菓子が好きだからあまり硬くないおせんべいを買う。 ・家族みんなを招待するから、量がたくさん必要だ。	・3～4人のグループ内でインタビューカードや団らんの計画表を見せ合いながら、買い物の目的が家族の団らんのためであることを再確認し、意欲の高揚につなげる。 ・1～4班の発表を聞いて回り、発表できない児童には、ワークシートのどの部分を話すのかを助言する。	・5～8班の発表を聞いて回り、発表がなかなかできない児童に助言する。	
5	2 本時の学習課題をつかむ。 団らんのための、よりよい買い物の計画を立てよう。			
25	3 買い物の計画を立てる。 (1)『買い物の視点』について確認する。 ①値段 ②数・量・大きさ ③品質 ④安全性 ⑤環境 ⑥消費期限と賞味期限	☆家族のことを考えた適切な買い方とはどういう買い方なのか視点を掲示物として示すことで、計画を立てやすくする。		

	(2) 団らんのための買い物の計画を立てる。 ・何をどれだけ買うか。 ・本当に買う必要があるかどうか。 ・どの店で何をかうか。	・いろいろな店の広告を用意することで、品質や価格、数・量などを比べられるようにする。 ・③～⑥の視点等、広告だけでは得られない情報もあることに気が付かせ、買い物時に原材料等を確認することが必要であることをアドバイスする。 ・ワークシートを工夫し、家にある等の理由で買わなくても済むかどうか判断できるようにする。 ☆品物を選択できない児童には、団らんに家族の誰が参加するかを確認させ適切な量や種類を選べる手立てとする。	・M男に広告の見方を助言し、適切な品物を選ぶように支援する。 ☆5～8班の児童を中心に家族のことを考えた品物が適切に選択できているかを確認する。できていない場合はT1と同じ手立てで助言する。	購入しようとする物の品質や価格などの情報を集め、ワークシートに工夫点を記入する場面 ■ 評価方法 【観察・ワークシート】 創意工夫技能
5	4 立てた計画をグループの友達に発表する。 何をどこで、どのくらい買うことにしました。この店で買う理由は～だからです。買う時には～に気を付けたいです。	・発表を聞いている児童は付箋に友人の買い物のよさを書くことで、買い物の仕方について思考を深めるとともに、友人の工夫から学ぶように促す。	・発表が苦手な児童には、発表の方法を示した掲示物を見ながら発表するよう助言する。	
5	5 学習のまとめをし、振り返りをする。	・家庭実践の主旨や計画を事前に保護者に伝え、協力を得る。		

7 授業のポイント

- ・家族のために自分で団らんの企画をするという意識を持たせることで、家族一人一人の好みを考えてよりよい買い物をしようという意欲につながる。
- ・家庭に、学級便りなどで事前に主旨を伝えることで、家庭での話題になり家の人からもよりよい買い物の情報が得られ、実践力にもつながる。

④ 団さんのための買い物の計画を立てよう 氏名

◎ 招待する人

◎ 用意する物

【情報を集め、比べて考える】

品物	値段	数・量・大きさ	品質	安全性	消費期限 ・賞味期限	必要性
(例) ヨーグルト かぜりー	A店でヨーグルトが 90円, B店でぜり ーが118円,	A店は1つの値段 で1375g, B店は4個パック	A店とB店 のは脂肪0			○個買う または, 家 にあるので 買わない等

【買う物】

(例) 90円のヨーグルトを4
つA店で買う。
・
・
・
・

【友達からのアドバイス】

振

研究の視点	よりよい生活を目指して課題を解決する能力を育む授業の工夫 ー日本の伝統食をおいしく食べよう。我が家のみそ汁作りの活動を通してー (内容 A と内容 B の関連を図って)
-------	--

1 題材名 食べて元気に～日本の伝統食をおいしく食べよう～（第5学年）

2 題材の目標

- 毎日の食事に関心をもち、栄養を考えた食事をしようとする。（家庭生活への関心・意欲・態度）
- おいしいご飯のたき方やみそ汁の調理の仕方について考えたり、自分や家族の生活をよりよくするために自分なりに工夫したりする。（生活を創意工夫する能力）
- 米飯及びみそ汁の調理ができる。（生活の技能）
- 五大栄養素の種類や体内での主な働きについて知り、3つのグループの食品を組み合わせることにより、栄養のバランスのよい食事になることを理解する。（家庭生活についての知識・理解）

3 題材について

本題材は、小学校学習指導要領家庭科の内容B（2）「ア体に必要な栄養素の種類と働きについて知ること。」「イ食品の栄養的な特徴を知り、食品を組み合わせるとる必要があることが分かること。」（3）「エ米飯及びみそ汁の調理ができること。」の3つを受けて設定されている。この学習を通して、栄養素の種類と働きを知り、栄養を考えて食事をとることの大切さが分かるようにするとともに、米飯とみそ汁の調理に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることをねらいとしている。

平成25年2月に行われた小学校学習指導要領実施状況調査（家庭）によると、「食品の栄養的な特徴」、「我が国の伝統的な日常食である米飯とみそ汁の調理」に関する知識・理解については、食品を主に含まれる栄養素により3つのグループに分けることやみそとみそ汁の実を入れる順序に関する知識・理解不足に課題があるとの結果が出た。児童はこれまでに、学級活動における望ましい食習慣の指導の時間に、栄養教諭から、食品は働きごとに3つのグループに分けられることや、たくさんの食品をバランスよく食べることなどの話を聞いている。

そこで、ここでは、既習の学習を生かして、普段食べている給食の献立を使って3つのグループ分けをしたり、学級活動の時間も使いながら栄養教諭から食品を組み合わせるとる必要があることについての話を聞いたりすることを通して、確実に知識を身に付けられるようにしていきたい。「米飯の調理」と「みそ汁の調理」では、家庭でのインタビュー調査によって出てきたおいしさのポイントとなる調理の仕方について、なぜそうするのかを考えさせるために、水の量や吸水時間を変えた米飯や、だしあり・なし、みそ先入れ・後入れのみそ汁の調理実験を行うようにする。そして、調理の際には、ペアでの学習を取り入れ、活動の時間を多くすることで、確実な技能の定着を図りたい。また、内容A「家庭生活と家族」との関連を図り、「〇〇家のみそ汁」や「〇〇のためのみそ汁」など、今後の家庭での生活に生かせるように、相手を意識したみそ汁を作るようにする。その際、我が家のみそ汁について家族にインタビューしたり、作ったものを食べてもらった感想を聞いたりして、授業後の継続的な家庭での実践へとつなげていきたい。

4 題材の評価規準

内容	家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を 創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・理解
内容 A	・家族のための食事作りを通して、自ら家庭の食や生活に関心をもち、食事作りに取り組もうとしている。	・家族との食事作りを通して、家族とともに楽しく食事をするために自分なりに工夫している。		・家族とのふれあいや団らんの大切さについて理解している。

内容 B	毎日の食事に関心をもち、栄養を考えた食事をしようとしている。	おいしい米飯のたき方やみそ汁の調理の仕方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。	米飯及びみそ汁の調理ができる。	米飯とみそ汁の調理の仕方について理解している。
---------	--	--	---	---

5 題材の指導と評価の計画（11時間）

は本時

学習過程	小題名及び目標 ()は時数	主な学習活動	家庭生活とのかかわり	評価規準（評価方法）			
				関心・意欲・態度	創意工夫	技能	知識・理解
見つめる	1 なぜ食べるのか考えよう。(3) ・栄養を考えて食事をとることの大切さが分かる。	- これまでの保健体育の学習や食育の学習を振り返り、なぜ食べるのか考える。 - 給食の献立を見て、献立に使われている食品について調べる。 ①	自分の食生活を振り返る。	B食事に含まれる栄養素が体の成長や活動のもとになることに関心をもっている。 (ワークシート・発言)			A食生活が営まれている家庭生活は、自分の成長や健康な生活を支えるために重要であることを理解している。 (ワークシート)
	・食品を3つのグループに分けることができる。	給食の献立に使われている食品を3つのグループに分ける。 ①					B五大栄養素の種類とその働きについて理解している。 (ワークシート)
	・五大栄養素と、食品に多く含まれる栄養素の体内での主な働きが分かる。	- 五大栄養素と体内での主な働きを調べる。 - 栄養教諭から食品の栄養的特徴や食品の組み合わせについての話を聞く。 - 給食の献立の中のみそ汁や家庭で食べたことのあるみそ汁を例にとり、食品のグループに分ける。 ①		B食品をグループに分けることなどを通して、食品の栄養的特徴や食品の組み合わせに関心をもっている。 (ワークシート・発言)			B食品に含まれる主な栄養素の体内での主な働きにより、食品を3つのグループに分ける分け方について理解している。 (ワークシート)
さぐる	2 トライクッキング!おいしいご飯とみそ汁作りのひみつを探ろう。(5) ・ご飯とみそ汁が日本の伝統食であることがわかり、おいしいご飯のたき方と基本のみそ汁の作り方を理解している。	- おいしいご飯やみそ汁作りのひみつについてのインタビューの結果を報告し合う。 - 報告会で出た意見を中心に、おいしさの要点となるものを確認し、おいしさのひみつを調べる計画を立てる。 ①	家の人はどんなことに気を付けてご飯やみそ汁作りをしているのか; また、ご飯の炊き加減やみそ汁のだしや実の好みはあるかをインタビューする。	A家族のための食事作りを通して、自ら家庭の食や生活に関心をもち、食事作りに取り組もうとしている。 (ワークシート・発言)			Bご飯とみそ汁が日本の伝統的な日常食であることや米、みその特徴が分かる。 (ワークシート・発言)
		おいしいご飯のひみつである、「計量」、「給水時間」、「火加減と加熱時間」、「蒸らし」について調べる。					B米飯の調理の仕方について理解している。 (ワークシート・調理計画)

		・おいしさのひみつである、「だし」、「実を入れる順序」、「みその扱い方」について調べる。①					Bみそ汁の作り方について理解している。 (ワークシート・発言)
		・米飯とみそ汁の作り方について調理計画にまとめる。①			B米飯とみそ汁の調理の仕方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。 (調理計画・行動観察)		
		・おいしさのひみつを生かして、米飯とみそ汁の作り方を試してみる。①				B米飯とみそ汁の調理ができる。 (行動観察)	
広げる	3 ○○家のみそ汁のレシピを作ろう！ (4) ・自分の家族のためのおいしいみそ汁の作り方を考えたり、工夫したりする。	・基本のみそ汁の作り方を生かして、家族のために作るみそ汁のレシピを考える。 ・レシピを見せ合い、友だちのよさや改善点を見つける。②	・家庭でのインタビューをもとに、家族のためのみそ汁の調理計画を立てる。		Aみそ汁の調理の仕方について考えたり、自分や家族の生活をよりよくするために自分なりに工夫したりしている。 (調理計画・行動観察)		Bみそ汁の作り方について理解している。 (ワークシート・調理計画)
深める 生かす	☆ 家庭で実践する。(○○家のみそ汁を作ろう)						
	4 紹介します、○○家のみそ汁！ (1) ・家庭実践報告会をする。	・家庭実践をして完成した○○家のレシピを発表する。①		A家族のための食事作りを通して、自ら家庭の食や生活に関心を持ち、食事作りに取り組もうとしている。 (レシピ・発表)			

6 本時の学習（6時間目）

(1) 目標

インタビューをもとにして考えたおいしさのひみつについて調理実験で確認することで、我が国の伝統的な日常食であるみそ汁の作り方について理解することができる。(知識・理解)

(2) 準備・資料

教師 だし、みそ汁の実、みそ、ストップウォッチ

児童 ワークシート、振り返りカード、調理手順表

(3) 展開

配時	学習活動及び内容	・指導上の留意点 ☆内容 A との関連	評価場面・評価方法
5	1 本時の学習課題をつかむ。 おいしいみそ汁を作るには？	☆インタビューの結果から出てきたおいしさの秘密を再度確認し、その中から本時では、「だし」, 「実を入れる順序」, 「みその扱い方」について条件を変えた調理実験をし, おいしいみそ汁を作るためのポイントを調べることを伝える。	
15	2 前時の学習について振り返り, 自分たちの調べるテーマを再度確認する。 ・実は火が通りにくい物から入れる。 ・みそは最後に入れる。 ・家族の好みのだしをとってみそ汁を作っていた。 ・彩りも考えられていた。 ・旬の野菜が入っている。 ・煮えにくい実は切り方を工夫する。 ・三つのグループを意識して実を選ぶ。	・何のための実験かを確実に押さえるために, 前時までに実験のテーマや調理計画を確認させておく。 ・自分達がどの条件で実験を進めていくかを再度確認させるために, 実験に入る前に, 実験テーマを発表させる。 ・グループごとに実験の内容が違うことを伝え, ペアグループとの食べ比べから, おいしさのポイントを見つけることを再度確認する。	
7	3 グループごとに実験調理をする。 1 班 みそ先入れ 2 班 みそ後入れ 3 班 だしあり 4 班 だしなし 5 班 大根→油揚げ→ねぎ 6 班 ねぎ→油揚げ→大根	・調理時間を短縮するために, 食材はあらかじめ計量し, 切っておいたものを各グループに配付する。 ・グループごとに実験結果をホワイトボードに書かせ, 全体で共有できるようにする。	
13	4 ペアグループで試食をし, 結果を話し合う。	・他のグループの実験結果も聞き, 実験から分かったことをまとめていくよう助言する。	
5	5 結果を発表し, わかったことを全体で話し合う。 ・みそは後に入れることで香りがひきたつ。 ・だしを入れることで, うま味のあるみそ汁になる。 ・実は煮えにくいものから入れることでちょうどよく火が通る。	・好みの差についても確認した上で, おいしいみそ汁を作るためのポイントをまとめていくようにする。	みそ汁の作り方についてわかったことを発表し, まとめる場面
	6 本時の学習を振り返り, 次時の学習について知る。	・次時では, 本時でわかったみそ汁のおいしさのひみつを生かして, 米飯とみそ汁の調理計画を立てることを伝える。	■評価方法 【行動観察・ワークシート】 知識・理解

7 授業のポイント

- ・本題材は、内容 A「家庭生活と家族」と内容 B「日常の食事と調理の基礎」との関連を図りながら、栄養素の体内での働きを理解し、バランスよく食べることの意味などを理解した上で、米飯とみそ汁作りの基本的な技能を身に付けさせることをねらいとした。そして、広げる・深めるの段階で、「〇〇家のみそ汁」というテーマで、自分の家族を考えたみそ汁作りを行う実践を通して、家族の一員として自分のできることを増やしていけるようにした。
- ・家庭との連携を十分に図り、インタビューや実践ができるように、学年便りや学級通信等をお願いをしておくといよい。
- ・調理実験の時間は、何のための実験か、何をしらべたいのかをよく理解させる必要がある。
- ・調理実習前に、実験をすることによって実感を伴う理解ができ、調理実習や家庭での実践につながる。
- ・本指導計画では、技能を見取る時間が少なかったとの反省点があるので、技能を評価する時間を学校の実態に合わせて増やすといよい。

食べて 元気に お家の人へ インタビュー！！

名前()

☆「わが家のみそ汁は、何だし を使っていますか？」

☆「わが家のみそ汁は 何みそ を使っていますか？」

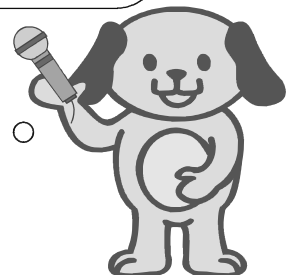
☆「わが家のみそ汁を作るときの ポイントは何ですか？」

(調理の手順、実の選び方、家族の好みに合わせた調理、かくし味など)

☆「おいしいご飯を炊くための ポイントは何ですか？」

(炊く前にやること、炊いた後にやること、家族の好みに合わせた調理など)

ご協力ありがとうございました。



お家でクッキング☆チャレンジカード

年 組 ()

料 理 名	材 料	分 量 () 人 分
	調 理 手 順	

実践してみて

お家の人から

食べて 元気に ワークシート

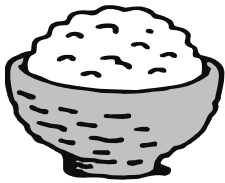
名前 ()

1. おいしいご飯とみそ汁の特徴について考えてみましょう。

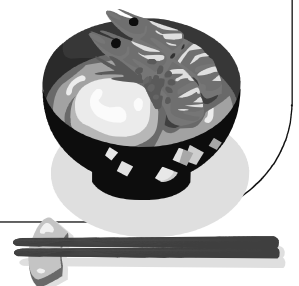
ご飯とみそ汁は、() の基本となる主食とする物です。
() は日本の主な農産物です。米には ()
のひとつであるでんぷんが多くふくまれています。水を加えて加熱することによって、でんぷんが変化し、やわらかくおいしいご飯になります。

みそ汁に入れるみそは、() の加工品です。みそはたんぱく質を多くふくみ、調味料として古くから親しまれている食品です。

2. おいしいごはんのひみつは何だろう？



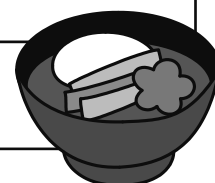
3. おいしいみそ汁のひみつは何だろう？



め

◎ 実験からわかったこと

ふ



平成 2 8 年 度 研 究 同 人

		氏 名	学 校 名
研究企画部	○	藤 井 純 子	寿小
		三 村 宣 子	国田義務教育
		小松本 昭 美	東成井小
		高 木 真由美	大村小
		増 子 律 子	新宮小
事務局 (会計) (ものづくり)	○	中 山 香 理	附属小
		大 金 マ ミ	長岡小
		加 山 恵	中村小

<推進委員> ◎ブロック長 ○副ブロック長 もものづくり

区	郡市名		氏 名	学 校 名
中 央	水 戸	◎	持 丸 ひとみ	河和田小
	笠 間	も	添 田 扶美子	稲田小
	ひたちなか		柳 生 悦 子	佐野小
	常陸大宮		庄 司 江吏子	上野小
	那珂市		関 千 穂	菅谷西小
	小美玉	○	鈴 木 恵美子	玉里北小
	東茨城		高 野 基 行	七会小
	那珂郡		菊 池 のり子	照沼小
	大子地区		高 林 理 佳	黒沢小
県 北	日 立	◎	三 井 明 美	滑川小
	常陸太田		上 野 洋 子	山田小
	高 萩	も	保 里 順 子	松岡小
	北茨城	○	橋 本 幸 子	中郷一小
県 東	鹿 嶋		田 口 明 美	大同西小
	神 栖		佐 保 敏 子	息栖小
	鉾 田	◎	生井澤 浩 子	大竹小
	潮 来	も	成 田 恵美子	日の出小
	行 方	○	大 塚 もと子	麻生東小
県 南	土 浦		澤 邊 浩 恵	都和南小
	石 岡	◎	内 田 美智子	東小
	龍ヶ崎	○	山 口 めぐみ	馴柴小
	取 手		丹 雅 子	藤代小
	牛 久		雑 賀 香	奥野小
	つくば		高 野 満美子	前野小
	守 谷		稲 垣 明 子	黒内小
	稲敷市		伊 藤 ゆり子	江戸崎小
	かすみがうら	も	栗 原 通 子	下稲吉東小
	つくばみらい		遠 藤 操	小張小
	稲敷郡		秋 葉 弘 美	阿見一小
	北相馬		前 野 恵 美	布川小
県 西	古 河		根 芝 由美子	大和田小
	結城市	◎	新 井 典 子	結城小
	下 妻		大久保 幸 子	下妻小
	常 総		栗 原 紀 子	豊田小
	筑 西		清 水 陽 子	河間小
	坂 東	○	倉 持 信 子	弓馬田小
	桜 川		川 股 紀 子	樺徳小
	結城郡	も	藤 田 洋 子	西豊田小
	猿 島		飯 村 真 実	静小

発行者 茨城県教育研究会技術・家庭教育研究部
 部長 磯崎 則男
 小学校部長 米川 順子
 発行日 平成 2 9 年 2 月 1 5 日
 印刷所 (有) 山田軽印刷所
 (事務局 附属小 0 2 9 - 2 3 1 - 2 8 3 1)

